

介護職員の賃上げは全額国費で行うべき 保険料、これ以上の値上げはしないで

第1回市議会で
質問しました



日本共産党
よっちゃん通信
2022年4月号

第6波のオミクロン株の感染が広がってなく急増し、大変深刻な事態です。感染拡大のなかとくに高齢者は数年に渡り、外に出るのも控え、コミュニケーションもままならず、体力も精神的にも大きく悪化しています。

私、宮坂良子は、高齢者の実態調査、対応を求めましたが、市は「健康2次被害」という実態は明らかであると認識しているので、介護予防の取り組みを継続していく」と答えました。

ヘルパー 陽性者へも訪問

自宅療養者が大きく増えているなか、厚労省は陽性の人や濃厚接触者にも、訪問サービスを提供するよう求めています。ヘルパーには陽性者訪問のリスクに対しての手当などありません。知合いのヘルパーさんは、もし自身が感染したり、高齢者に感染させたりしたらと思うと、毎日が危機感で一杯と話していました。

私は、介護事業者への支援を
するよう求めました。

市は「今のところ予定はな

い」と答えました。

介護職員への賃上げ

国は9月までの予算

国は、介護職員に対し2～9月まで賃金を9千円引き上げる予算を組みましたが、10月からはありません。私はその財政は保険料値上げにつながるのではないかと質問しました。

市は「40歳～64歳までの保険料、月額70円程度引き上げ、65歳以上は当面介護給付費準備基金などを取り崩して対応する」と答えました。

保険料は導入時3025円、今6250円と2倍をこえていきます。賃上げの財源が保険料上昇につながりかねないことに対し、全国市長会からは「サービス利用者に新たな負担が発生する」と懸念の声が上がっています。

私は、介護職員への賃上げは、国民負担がないよう、全額国費で行うべき。市は国庫負担増額を国へ求めるよう要望しました。

市は「市長会などを通して要望している」と答えました。



放課後等デイサービス 市内で増やして 子どもは学び、楽しんでいる 仕事をしている親も安心



日本共産党
よっちゃん通信
2022.4/10, 202号

放課後等デイサービスは、支援を必要とする障がいのある子ども、小、中、高校生が放課後や夏休みなどの学校休業日に過ごす場であり、遊び・生活を通して、子どもの状況に応じた発達支援や元気に楽しく過ごすところ です。

狛江市内での利用者は年々増加し、今年度は156人。障がいの子もたちになくてはならない放課後等デイサービスですが、報酬が18年に10%引き下げられ、大きな打撃となりました。さらに21年は、8.8%減少しているということでした。

減収は大きな痛み

市内の事業者からは、今回の減収は大きな痛み、報酬が低いことで職員が定着しないので困っていると伺いました。

私、宮坂良子は市として、家賃補助は続けていたきたいと要望しました。

市は「障がい児通所施設等支援事業として家賃補助を実施しています」と答えました。

市内2か所閉鎖

市内には6か所の放課後等デイサービスがありますが、3月末で2か所が閉鎖となります。私のところに、保護者の方から行き先が決まっていなくて相談がありました。相談者からは「日々の活動のなかで、沢山のことを学び、子どももとても楽しんでおり、仕事をしている私も安心でした。ここ数ヶ月探していますが、空きがなく、月・火のみで他の曜日が決まらずに、仕事は辞めたくはないのですが難しいところです。狛江市内のデイだからこそ、市内の障害のある子の親と知り合え、情報交換ができ、悩みも相談することができていました」と切実な声が寄せられました。

私、宮坂良子は、子どもたちがこれからどうなることかということが一番心配。市に、行き先が決まっていけない子どもの入所先の支援を求めるとともに、放課後等デイサービスを誘致するなど提案しました。

